但馬家畜市場

うっしっしい一情報2014

2月市

豊岡農業改良普及センター

２月１２日に行われましたセリ市全体の平均価格は、去勢が５９万４千円、　雌が４７万４千円でした。

普及センター調べ（税込価格）

（本人落としも含むため、JA公表数値とは異なります）

地域	去勢			雌			総計	
	頭数	DG	平均価格	頭数	DG	平均価格	頭数	平均価格
宍粟・佐用	8	0.979	579,206	7	0.855	464,250	15	525,560
篠　山	3	0.963	583,100	6	0.835	440,650	9	488,133
丹　波	21	0.987	603,000	12	0.876	485,800	33	560,382
朝　来	4	0.937	602,438	4	0.812	479,850	8	541,144
播　磨	9	0.965	579,017	9	0.815	451,267	18	515,142
美方郡	35	0.925	579,930	29	0.820	486,910	64	537,780
豊　岡	15	0.994	606,760	11	0.906	511,350	26	566,394
養　父	14	1.030	620,625	11	0.902	503,427	25	569,058
摂津・神戸	1	0.877	569,100	1	0.722	454,650	2	511,875
県北C	3	0.911	592,200	4	0.742	401,363	7	483,150
市場全体	113	0.966	593,808	94	0.845	479,224	207	541,775

2月市種雄牛ランキング

順位	種雄牛	去勢			雌			総計	
		頭数	平均DG	平均価格	頭数	平均DG	平均価格	頭数	平均価格
1	芳悠土井	20	1.011	617,453	14	0.871	522,525	34	578,365
2	丸宮土井	16	0.936	621,797	15	0.866	502,180	31	563,918
3	芳山土井	18	1.001	596,225	12	0.832	492,363	30	554,680
	総計	113	0.966	593,808	94	0.845	479,224	207	541,775
4	福芳土井	12	1.018	592,025	16	0.884	498,947	28	538,838
5	千代藤土井	7	0.989	598,050	7	0.854	438,150	14	518,100
6	丸富土井	23	0.902	557,687	18	0.798	438,375	41	505,306

価格は税込み　（10頭以上の出荷があった種雄牛のみ記載）

ランキング種雄牛の育種価

	種雄牛	枝肉重量	ロース芯面積	バラの厚さ	皮下脂肪厚	歩　留	脂肪交雑
1	芳悠土井	A+	A	A+	B → A	A	A+++
2	丸宮土井	B	B	A+	A++	A+	A++
3	芳山土井	A++	A++ → A+++	A+++	D → C	A+ → A++	A+++ → A++
4	福芳土井	A++	B	A++	C	C	A+ → A
5	千代藤土井	B	A++	D	A	A+	A+++
6	丸富土井	A	A++	C	C	A	A++

北部農業技術センター提供（育種価評価は平成26年01月現在）

子牛が産まれなきゃ、お金も生まれない！！

パート3　～一年一産　妊娠率42%を達成するために～

前回は、繁殖成績をより正確に示す数値として妊娠率について説明しました。今回は妊娠率の観点から一年一産を達成するためのポイントについて具体的に考えてみたいと思います。

1．妊娠率42%が持つ意味について

まず、サブタイトルにもあります「妊娠率 42%」が持つ意味について考えてみたいと思います。一年一産するためには、当然のことながら、分娩間隔を 1 年未満（365 日未満）にする必要があります。それでは、妊娠率と分娩間隔の関係を見てみましょう。妊娠率が高くなるほど、空胎日数が短縮され、分娩間隔は短くなります（表１）。分娩間隔が 365 日未満とするためには、妊娠率 42%以上とする必要があることがわかると思います。

表１．妊娠率と分娩間隔 ※

妊娠率	分娩間隔
44%	362日
43%	363日
42%	364日
41%	366日
40%	367日

※待機日数（人工授精をしないと決めた日数）を 50 日で計算

2．妊娠率42%からわかること

妊娠率は前回説明したとおり、以下の方法によって計算されます。

妊娠率＝発情発見率（人工授精率）×受胎率

妊娠率は、発情発見率と受胎率の掛け算で計算されることから、妊娠率は発情発見率と受胎率の２つの要因に分けられます。それでは２つの要因を変化させた時の妊娠率について見てみましょう（表２）。表２では妊娠率が 42%以上となった枠に色を付けています。

妊娠率 42%以上となる絶対条件として、発情発見率・受胎率とも 50%以上でなければ農場全体としての一年一産は不可能であることがわかります。

現在の繁殖技術レベルから、発情発見率の目標は 70%以上とされており、妊娠率 42%を達成するためには、受胎率 60%以上（平均種付回数 1.7 回）を目標とする必要があります。

表２．受胎率および発情発見率から計算される妊娠率

受胎率（平均種付回数）	発情発見率（人工授精率）						
	100%	90%	80%	70%	60%	50%	40%
100%（1.0 回）	100%	90%	80%	70%	60%	50%	40%
90%（1.1 回）	90%	81%	72%	63%	54%	45%	36%
80%（1.3 回）	80%	72%	64%	56%	48%	40%	32%
70%（1.4 回）	70%	63%	56%	49%	42%	35%	28%
60%（1.7 回）	60%	54%	48%	42%	36%	30%	24%
50%（2.0 回）	50%	45%	40%	35%	30%	25%	20%
40%（2.5 回）	40%	36%	32%	28%	24%	20%	16%

3．一年一産！妊娠率42%を達成するために

1）良い発情を見逃さず発見率 70%以上を目指そう！！

発情発見率が低くなる主な原因として、①単純な発情の見逃し、②発情行動が微弱化の 2 つが考えられます。

①に心当たりのある方は、前回、近年繁殖牛の発情行動が短くなっており、発情の見逃しが起こる可能性が高くなっているとお伝えしました。発情発見のための行動観察は 1 日に最低 2 回、発情がわかりやすい 18:00～6:00 に行うようにしましょう。

②に心当たりのある方は、授乳期においてタンパク質不足など栄養状況に問題がある場合、もしくは暑熱ストレスや牛床の状態など牛舎環境に問題がある場合に発情行動が低下してしまうことが多いようです。飼養管理や飼育環境をもう一度見直しましょう。

2）必ずとめるぞ、受胎率 60%以上！！

受胎率が低くなる主な原因として①授精適期ではなかった、②暑熱ストレス、③栄養状態に問題ありの 3 つが考えられます。

①の場合、発情発見率でも説明しましたが発情の持続時間が短くなっている可能性もあり、これまでの方法で授精を行った場合、授精適期よりも遅くなってしまう可能性もあります。受胎率の低い牛に関しては、現在行っている授精のタイミングを再度検討してみる必要があるかもしれません。

②の場合、特に夏から秋にかけて、暑熱ストレスを受けた場合、特に早期胚（受精卵）死滅の確率が高いことが知られています。その他の環境ストレスも含めて、暑熱対策を行うなど飼養環境を見直しましょう。

③の場合、発情し人工授精したものの、エネルギー不足やタンパク質過剰により受精卵が着床せず、不受胎となるケースも考えられます。授乳期においては、タンパク質を不足させないことが必要ですが、過剰給与にならないようにしましょう。もちろん日頃から母牛の栄養度をチェックし、太りすぎや痩せすぎに注意しましょう。

まとめ

〇一年一産するためには、分娩間隔 364 日となる　繁殖指標　妊娠率 42%以上が必要！

〇一年一産するためには、発情発見率、受胎率とも 50%以上が絶対条件！

〇一年一産するためには、発情発見率 70%以上、受胎率 60%以上が目標！

☆なお、農場における妊娠率は、分娩日や人工授精日などの記帳により計算することができますが、多頭飼育をされている方には、パソコンのエクセルソフト「雅 MAX」という繁殖管理ソフトもあります。興味を持たれた方は最寄りの普及センターにご相談ください